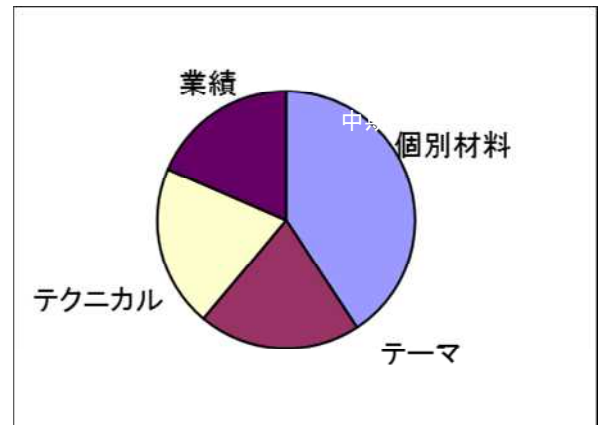


フィスコ全体での戦績 16勝 11敗

3月のパフォーマンスは勝ち越しとなった。米国のトランプ大統領への期待感が後退。円高進行などもあり日経平均株価は 19000 円を割り込む場面もあり、不安定な相場だった。

個別では、インターネットインフィニティー<6545>が30%超、KLab<3656>が約 12%の上昇を見せ、値動きの軽い新興市場や IPO 銘柄、ゲーム株などの戦績が良好だった。4月は地政学リスクの高まりで防衛関連に脚光が向かうも、基本的には見極めムードが強まることから手がけずらさが意識されそうだ。



勝率の高い要因

小林 大純 戦績 3勝 1敗 1予想中

■3月の振り返り

新興市場では3月後半のIPOラッシュを前にマザーズ指数、日経ジャスダック平均ともに上げ一服となった。取り上げた銘柄では、3月に上場したビッグリー<3981>やインターネットインフィニティー<6545>がIPO銘柄物色に乗って大きく上昇した。特にインターネットインフィニティーは介護関連として人気化する場面があった。一方、JMC<5704>は信用規制の解除タイミングを巡ってトレンドを崩した。

■4月の戦略

地政学リスクの高まりが相場全体の重しとなっている。特に新興市場銘柄は値動きの大きさからリスク回避の売りが出やすい。物色が一部のテーマ株・材料株に集中しやすいため、トレンドに沿った銘柄を選定したい。

佐藤 勝己 戦績 10勝 7敗

■3月の振り返り

3月は10勝7敗と勝ち越しとなった。市光工業<7244>などが比較的良好なパフォーマンスとなったほか、オカモト<5122>は目標株価を達成している。ただ、全体相場がレンジ内の動きで方向感が乏しかったため、総じて上昇、下落ともに小動きにとどまる状況であった。

■4月の戦略

4月は下旬から3月期決算銘柄の決算発表が本格化してくる。中旬にかけては業績修正の動きなども活発化してこよう。外部環境への不透明感が強い中で、好業績評価の持続性やアク抜け感の高まりなど、決算への反応を早めに見極めていく必要がある。

村瀬 智一 戦績 -勝 -敗 2予想中

■3月の振り返り

シルバーエッグテクノロジー<3961>、メタックス<6172>を新たに加えているが、中小型についても需給状況が次第に悪化傾向にあるとみられ、こう着感の強い状況が継続。その他ウォッチ銘柄についても、中小型にシフトしてきたが、ロスカットを考える必要がある。

■4月の戦略

決算シーズンに入ってくることもあり、決算を手掛かりとした個別対応に。ロスカットとともに、調整が長期化している好業績株の下値拾いのスタンスと考えている。外部要因が不透明ななか、引き続き主力処は手掛けづらいただろう。

田代 昌之 戦績 0勝 2敗 2予想中

■3月の振り返り

3月は4銘柄予想したが、2銘柄負け、2銘柄予想中と勝ち無しの状態となった。IPO銘柄が多かったことからセカンダリーで追っかけたものの、さえない結果となった。

■4月の戦略

4月は下旬辺りから決算発表が本格化する。決算関連を中心とした相場展開となりそうだが、足元の円高進行で大型株を筆頭に日本株は手掛けにくい状況となっている。急騰している防衛関連を拾いに行くのもリスクか。地政学リスクが解消されるには時間がかかるだろう。好業績の内需銘柄を下落したタイミングで拾っていききたい。

若杉 篤史 戦績 2勝 1敗

■3月の振り返り

『ラブライブ！サンシャイン!!』TVアニメ第2期の制作が決定したことから注目したKLab<3656>が約 12%の上昇となった。その他、2月の月次業績が16年1月以来の増加に転じたキタムラ<2719>などにも注目したが関心は高まらず。総合的に前月と比較して冴えないパフォーマンスとなった。

■4月の戦略

決算発表が本格化してくるが、足元の地政学リスクの影響で、放置されている好業績銘柄も見られる。また関心が向かっていなかった割安株についても、底打ちを注視していきたい。これらの銘柄に注目する他、いつも通り個別材料株に反応していく。